

2019年  
行政視察研修報告書

日出町議会総務産業常任委員会

## 日出町議会総務産業常任委員会行政視察研修報告書

- 1 期 間 2019年10月15日(火) ～ 17日(木)
- 2 視 察 地 埼玉県毛呂山町、埼玉県伊奈町
- 3 視察事項 (1)毛呂山町議会 地域公共交通事業とスマートシティー実証実験導入の経緯について  
(2)伊奈町議会 観光事業について

### 4 参加者

#### 日出町議会総務産業常任委員会

委員長	金 元 正 生
副委員長	安 部 徹 也
委 員	熊 谷 健 作
委 員	工 藤 健 次
委 員	池 田 淳 子
委 員	川 西 求 一
委 員	阿 部 真 二
委 員	河 野 美 華
議 長	森 昭 人
随 行	藤 原 寛 (商工観光課長)
随 行	一 宮 健太郎 (政策推進係長)
随 行	井 川 功 一 (議会事務局長)

## I : 埼玉県毛呂山町

### 1 毛呂山町概要

埼玉県の西南部、首都圏50km圏内に位置し、面積34平方キロメートル、人口3万3700人。950年以上の歴史を誇る「流鏑馬」の町。全国で初めて地産化した「ゆず」の町。埼玉医科大学病院が立地する「医療と福祉」の町。町域の約40%が山林であり、西部地域は県立黒山自然公園が含まれる外秩父山地で、中央地域と東部が概ね平坦な地形で居住地域となっている。

2 説明者	毛呂山町議会	議長	長瀬 衛
	毛呂山町議会	事務局長	岡田 忠彦
	毛呂山町企画財政課	課長	大野 勉
	毛呂山町企画財政課	副課長	高木 洋
	毛呂山町まちづくり整備課係長		岩上 弘樹
	毛呂山町まちづくり整備課		酒井 優

### 3 視察内容

地域公共交通事業とスマートシティー実証実験導入の経緯について

#### ・経緯

全国的に言える事でもあるが、日出町も高齢者等の運転をされない方々の日々の移動手段確保が喫緊の課題となっている。議会としても、ここ数年にわたって研究し提言を行っているところだが、更なる方策を探る為に先進地である毛呂山町へ視察を行った。

#### 「地域公共交通事業」

- 町内にはJRの駅が4駅あるが、循環バスの需要は高く、町内循環バス「もろバス」は現在3コースを運行している。平成19年12月民間バス事業者が撤退した後、町議会の請願を受け、新たな交通手段を検討した結果、平成21年10月にワゴン車2台にて運行を開始した。利用料金は、運行開始当初は無料とされていたが、厳しい町の財政状況から平成26年から有料化。その際、更に高齢者等の日常生活支援や利便性を拡充するため、台数を1台増やし増便し、埼玉医大への直通運行を実施している。運行開始から9年となり、利用者数は年々増加している。利用者の少ない便、また定員を超過している便があるため、実運行を踏まえた課題の改善に向けて、現在さらなる見直しを検討している。平成29年から変遷を重ね、運行日数、ルート、ダイヤを見直し、平成30年は前年と比べて利用者数が5000人増となり、総利用数は30000人を超えている。現在5コ

ース、運行本数15便、停留所数135箇所、利用料金は乗車1回毎(1コース毎)100円、月曜日から土曜日までの週6日運行で、運行時間は8時から17時40分となっている。

- 3台のバスは、目的地(コース)別に色分けされており、乗り間違いのないよう工夫がされていた。また、病院に行く便は午前中に集中するため、満車で乗れない方の解消、目的地までに時間がかかる等の問題解決として、2系統のルートを統合して双方向にし、1系統を方面別ルートにするなどの対策で解決している。更に利用者の快適性向上のために、町内の公共施設や店舗の協力を頂き、「バスまちスポット」の設置や、運行状況をナビタイムで情報発信して、待ち時間のストレス解消にも策を講じている。

#### 「スマートシティー実証実験導入の経緯」

- 国土交通省の薦める官民共同で新技術やデータを活用しながら、都市や地域の課題を解決するスマートシティーモデル事業については、全国の牽引役となる先駆的な取り組みを行う「先行モデルプロジェクト」15事業、15自治体の1つが毛呂山町である。先行モデルプロジェクトではスマートシティー実証調査予算を活用しながら、具体的な新しい取り組みへの着手と事業の成果やボトルネックなどの分析を実施するとともに、更にそれらを広く共有し、取り組み全体を支援ものである。毛呂山町では、「町内企業を核とした自動運転バス実装事業」として認可を受け、事業実施により、高齢化の進む住宅団地における不動産価値の向上やバス路線の誘致、都市機能強化、また将来的に公共施設再編を民間資本で実現しようと考えている。他、現在進行中の取り組みとして、役場業務のRPA(単純な間接業務の自動化)やテレワークの導入などを考えているが、現状は構想段階で今後の進捗を期待するべく注視したいと思う。

#### 4 所 感

- 面積が小さい町での公共交通であるが、大きな病院を抱えている為、様々な要望が住民から出されているが、それに対して実に細かく対応している。ルート、ダイヤにしても緻密に計算し大胆に行っている。また、他市町から病院までの乗り入れも行われており、本町としても、広域で病院への乗り入れの実現や、コミュニティーバスに限定せず、タクシー初乗り補助やデマンドタクシー等も費用対効果を検証し、高齢者への対応や、現在本町では児童生徒数が過去8年変わっていないことから、児童生徒の通学手段も考慮した対策を検討して、保護者負担の軽減を図る事により、移住者を呼び込むための施策としても結果が出せるのではないかと思いますので、早急に取り組むべく執行部と協議を重ねながら実現したと考える。



長瀬 毛呂山町議会議長 より歓迎あいさつ



視察研修風景（毛呂山町議会）

## Ⅱ：埼玉県伊奈町

### 1 伊奈町概要

埼玉県の中南部に位置し、都心から40キロの首都圏近郊地帯に位置し、昭和58年に東北・上越両新幹線の開業に合わせ、その高架を利用した埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）が開通し、町内に5つの駅が誕生している。それぞれの駅周辺での土地区画整備事業により優良な住宅地が整備され、現在では県内でも有数の人口増加地域となっている。

人口は、令和元年9月現在で4万4800人と急増、面積は14、79平方キロメートル。

2	説明者	伊奈町	町長	大島清
		伊奈町議会	議長	村山正弘
		伊奈町議会	副議長	永末厚二
		伊奈町議会総務建設産業常任委員長		栗原恵子
		伊奈町議会総務建設産業常任副委員長		戸張光枝
		伊奈町議会	事務局長	嘉無木栄
		伊奈町くらし産業統括監		藤村伸一
		伊奈町観光協会事務局長		松山義和
		伊奈町元気まちづくり課	課長	堀内啓介
		伊奈町元気まちづくり課	主事補	宇賀隆晃

### 3 視察内容 観光事業について

#### ・経緯

現在、全国的に地方創生の一環として、各自治体が熱心に観光行政に取り組んでいるが、本町に於いては、日々努力はしているものの結果としては残念ながら現時点では満足いく状況ではないと言わざるを得ない。そこで、少しでも現状を打開し、観光客誘致及び経済効果につなげるべく伊奈町の戦略を参考とし、本町の取り組みに活かすべく、学習の場として伊奈町を選択した。

- 観光協会は平成14年に任意団体として設立され、その後平成31年に一般社団法人化されている。職員数は6名、会員は団体30、企業70である。主なイベントとしては、「バラまつり」埼玉県内最大のバラ園で実施。期間は5月上旬から6月上旬と10月上旬から11月上旬。令和元年春に開催された祭りの来場者は58000人で賑わった。「伊奈まつり」毎年8月後半に町政施行記念公園で開催。模擬店や連携都市の物産館などの出店で賑わう。盆踊りや新興の他、芸能人を招いてのイベントも行っている。祭りの最後には3500発の花火が打ち上げられフィナーレを飾り、今年度の来場者数は50000人。「さくらまつり」

樹齢70年を超える、高さ10メートルにもなるソメイヨシノの大木が立ち並ぶ。今年度は3月23日から4月7日まで開催され、3月30日、31日には郷土芸能の公演や模擬店の他、地元野菜の販売、推奨土産の販売などのイベントも開催し、今年度の来場者数は26000人。「忠次公レキシまつり」平成30年から始めた祭りで1日開催である。町名の由来となった伊奈備前守忠次公の功績を称える目的で実施した。忠次公のテーマソングを作った、さくまひできさんによるライブをはじめ、チャンバラや芋掘りを行う。昨年はニューシャトルと連携し、車両基地特別公開や散策路のミニツアーを実施。昨年度の来場者数は700人。また、面積が狭いことから、伊奈レンタサイクルも有効のようで、要所に伊奈レンタサイクルマップを設置している。主催は全て観光協会、町からは観光協会に年間を通しての運営補助金の交付のみ。祭りは実行委員会を組織してなく、祭りごとの補助金はなく、町民からの寄付、商工業者からの協賛金、花火打上負担金、模擬店出店料が事業費の7割を占めている。

- 近年は日本薬科大学と連携してアロマ商品の開発に力を入れている。また、特長的な取り組みとしては、町内における優良な土産品を推奨することにより、土産品の普及及び品質向上、新製品の開発意欲を促進し、観光産業の振興を図る事を目的に、平成14年から土産品推奨規定、審査会規定を策定し、厳正な審査のもとに決定している。品目も年々増加していて、生産者や販売者の目標になっているとの事であり、活力を与えていることが感じられた。

#### 4 所 感

まず、多くの委員が視察レポートに記載してあった、我々の視察に対する伊奈町の対応には感銘をうけた。出迎えから、研修の際も町長、議長、副議長、委員長以下委員、執行部の皆さんが最後まで在席して頂き、丁寧な説明と有意義な意見交換会となり、伊奈町の「おもてなしの気持ち」が伺えたと同時に、ワンチームとしてあるべき姿は、見習うべきであると痛感した。

観光事業については、町長が商工会の事務局からの転身ということもあってか、非常に観光行政に前向きで積極的あり、説明を頂いたイベントは細部にわたり工夫を凝らして、また、最小限の財源で実施していること、財源の確保等は称賛に値するものと考えます。まだ始めたばかりの「忠次公レキシまつり」も近い将来には町のメインイベントとなっていくものと感じられた。また、都市圏に近い事もあって集客力が大きいことは分かるが、それだけではない地道な研究と努力が参考になった。

日出町も、例えば城下かれいまつりの根本的な見直しや、木下公の城下町であり、杵築市とも連携してのチャンバラ合戦や、サンリオと連携してのイベント等、更に誘客が期待できる材料はあると考える。これまでのイベントを常に探究心を持って取り組むべきであると改めて学ばせて頂いた。

最後に両町共に、少なからず台風19号の影響を受けたにもかかわらず、視察を受け入れて頂き、感謝と共に実り多い研修となった。



村山 伊奈町議会議長 より歓迎あいさつ



視察研修風景（伊奈町議会）